

1年 国語科研究授業のまとめ (12月7日)

1 単元名及び単元の目標

スイミー (5 / 15 本時)

- ◎ 物語の中から自分の好きなどころを見付け、音読で表現することができる。

2 本研究授業の提案について

場面の様子や登場人物の気持ちについて想像を広げながら読ませるために、以下の提案を行った。



【資料1 構造的板書】

- (1) 場面の様子や登場人物の気持ちをじっくりと考えて自分の考えをまとめることができるように、発問を絞るという手だてを行った。一つ目の発問の「どんな海の生き物に出会ったか。」では、ほとんどの児童が出てきた海の生き物を見付けて線を引くことができていた。しかし、生き物の名前だけに線を引いた児童と比喻表現なども含めた全てに線を引いた児童がいた。始めに例を示すことにより、簡単に確認することができたと考えた。二つ目の「スイミーはどんなことを思ったか。」という発問では、児童は主人公のスイミーに自分を置き換え、自分が選択した生き物への思いについて想像を膨らませて表現することができた。1種類の生き物を選択して考えることを予定していたが、複数の生き物について想像して考えをまとめる児童が多数おり、課題に対して意欲的に取り組む姿が見られた。内容も、生き物の特徴や良さについての記述から、海の生き物に接することでスイミーの気持ちが晴れ元気を取り戻していくところまで考えることができた児童もおり、スイミーの気持ちを深く読み取ることができた。
- (2) 想像したことを交流する展開を授業の中に位置付け、多様な見方ができることに気付かせるという手だてを行った。はじめに、ペア学習で互いの考えを発表し合い、その後、全体の前で発表する学習場面を設けた。ペア学習では、互いにワークシートを見せ合いながら自分が選択した生き物への思いを発表することができた。その際、相手の意見に対して「〇〇がいいね。」や「□□と思ったんだね。」といった感想を伝え合う姿も見られた。その後の全体発表では生き物ごとに意図的指名を行い、どんなことを思ったのかを発表し合った。それぞれの生き物の特徴や良さから始め、スイミーの驚きや楽しさ、スイミーが元気を取り戻していく様子や心の変化に広げていくように類型化して発表させた。その際、生き物ごとに分けて板書し、視覚的にも捉えることができるようにした(資料1)。それにより、児童は自分以外の考えに気付いたり更に想像を広げたりすることができた。友達の発表を聞きながら、「あっ、そうか。」「想像しやすいなあ。」などといったつぶやきがあり、協働的な学びにつながったと考える。
- 以上のことから、出会った生き物を自由に選択して登場人物の気持ちをじっくりと考えさせたり、自分が考えたことを互いに交流させたりする手だては、物語文を深く理解させる上で有効であった。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 学習への見通しを持たせるためにはどんな発問や指示が有効であるかを考えた。分かりやすい発問を心掛け、発問を絞ってじっくり考えさせたことにより、児童は課題に集中して取り組むことができた。深い読み取りができたことで、最後に本時の読み取りを生かして音読する場面では、だんだん元気を取り戻していったスイミーの気持ちを込めた音読を工夫することができた。
- (2) ねらいにせまるためには児童の実態を把握し、机間指導で児童が書いている内容を確実に見取って意図的指名につなげていくことが重要であると考えた。また、児童の意見を板書する際に視覚的に捉えることができるように構造化して板書した。児童の考えが多岐にわたり短時間で全ての意見を見取することは難しかったが、いくつかの観点で類型化し、意図的指名につなげることができた。

4 今年度の研究を振り返って

今年度は、物語文の学習において、発問や指示の工夫と意見の交流を位置付けた授業を行った。読みを深める手だてとして、発問を絞り、ワークシートを活用して考えをまとめさせ、友達と交流するという手だてを活動を取り入れた。このことは場面の様子や登場人物の気持ちを豊かに想像して深く読み取る上で有効であった。今後も、協働的な学びによって一人一人がより深く読み取ることができるように、単元構成の工夫や思考ツールの活用などの教材研究を充実させ、研究を深めていきたい。